

研究

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Associations Between Lifestyle and Mental Health in a Group of Japanese Overseas Workers and Their Spouses Resident in Düsseldorf, Germany

(日本人海外勤務者とその配偶者における生活習慣とメンタルヘルスとの関係 -ドイツ・デュッセルドルフ在住者における研究-)

TUEKPE WALLEY
氏名 KOREI-NEUMI



論 文 要 旨

【背景】海外勤務者とその配偶者は、海外居住地における異文化環境に接することにより、生活面の環境適応に迫られる。この結果、海外在住中にメンタルヘルスに関する問題点を生じることが知られており、在留邦人の精神衛生管理は重要な課題となっている。しかし、海外勤務者と、その配偶者についてのメンタルヘルス研究は少ない。生活習慣がメンタルヘルスに及ぼす影響について従来から研究が行われているが、海外における生活習慣とメンタルヘルスとの関連性を検討した報告はなされていない。

【対象および方法】1994年におけるデュッセルドルフ在住の海外勤務の男性486名と、その配偶者336名、合計822名を対象とした。メンタルヘルスの調査は、**Todai Helth Index(THI)** 自記式質問票を用いた。この質問票は妥当性研究がなされており、抑うつ、情緒不安定性、神経質、神経症に分類することにより定量的評価が可能である。生活習慣は、睡眠時間、飲酒、喫

煙、運動、朝食摂取、間食摂取について点数化を行い、これらを累積生活習慣インデックス (CLJ) として、生活習慣の全体的評価を行った。以上の結果を基に、勤務者とその配偶者の性差によるメンタルヘルスの状況について比較解析を行った。また、メンタルヘルスに与える生活習慣の影響について性差の違いを焦点に当てた詳細な検討を行った。

【結果】生活習慣については、飲酒、喫煙、朝食摂取、間食摂取の生活習慣指標において海外勤務男性の方が低値を示したが、メンタルヘルスについては女性配偶者における抑うつ、情緒不安定性、神経症の尺度得点が高かった。さらに、生活習慣とメンタルヘルスの両者の関係について相関分析を行ったところ、海外勤務男性において抑うつ、情緒不安定性、神経症において有意な弱い負の相関を見いだしたが、女性配偶者においては有意な相関性はほとんど見いだされなかった。

【考察】海外在住の男性勤務者とその女性配

偶者では、メンタルヘルスに与える要因が異なっている可能性があり、女性配偶者の場合は生活習慣よりも、海外における異文化環境による影響が大きいことが示唆された。これは、女性配偶者は男性勤務者に比べて生活状況が孤立化しやすくメンタルヘルスの維持に影響を与えると考えられた。男性勤務者においては生活習慣とメンタルヘルスとの間には弱い相関性が見いだされたが、本研究は横断研究であり研究デザイン上の限界があることから、生活習慣とメンタルヘルスとの因果関係については十分な結論が得られなかった。

【結論】海外における在留邦人の精神衛生管理において勤労者だけではなく、その配偶者の健康管理も重要である。生活習慣とメンタルヘルスとの因果性を明らかにするため、プロスペクティブ研究が今後必要とされる。

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	Tuekpe Mallet Korsi-Ntumi
論文審査委員	審査日	平成 18年 1月 24日	
	主査教授	森 毅	印
	副査教授	金 澤 浩二	印
	副査教授	佐藤 良也	印
(論文題目)			
Associations between lifestyle and mental health in a group of Japanese overseas workers and their spouses resident in Düsseldorf, Germany			
(日本人海外勤務者とその配偶者における生活習慣とメンタルヘルスとの関係 -ドイツ・デュッセルドルフ在住者における研究-)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文について、その研究に至る背景と目的、研究の内容、研究成果の意義と学術的水準について慎重に審査し、次のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
海外勤務者とその配偶者においては、環境、言語、文化の差異から母国在住時とは異なる生活面での適応の変化を迫られ、メンタルヘルス上の問題を抱える場合が少なくない。しかしながら、これまで、海外在留邦人のメンタルヘルス上の問題について、その頻度や影響を及ぼす因子を詳細に検討した報告は意外に少なく、近年になりようやく焦点が当てられるようになったのが現状である。また、勤務者のみならず海外に同伴した配偶者を含めて検討した報告も極めて少ない。			
一方、安定した日常の生活習慣の形成はメンタルヘルスの維持・向上に良好な影響を及ぼすことが以前より指摘されているが、それらの関連を報告した研究はすべて安定した環境下にある母国在住者を対象としており、環境、文化の異なる海外における在住者において生活習慣とメンタルヘルスとの関連を検討した報告は当該研究が初めてである。			
本研究は、海外在留邦人のメンタルヘルスに関して、勤務者およびその配偶者の両者に焦点を当て、海外でのメンタルヘルスの状況における両者の差異を明らかにするとともに、それらに与える生活習慣の影響についても性別毎に解明することを目的とし、従来の報告と比較してもより詳細かつ包括的な検討を行っている。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

2. 研究の内容

1994年の時点でデュッセルドルフ(ドイツ)に在住する海外勤務男性486名およびその女性配偶者336名(計822名)を対象とした。メンタルヘルスの状況については、Today Health Index (THI)による自記式の定量的評価が行われ、これらはさらに抑うつ、情緒不安定、神経質、神経症の4つのクラスター群に細分類してスコア化がなされた。また、生活習慣については、6つの代表的な生活習慣(睡眠時間、飲酒、喫煙、運動、朝食摂取、間食)について点数化し、それらを総合したスコアをCumulative Lifestyle Index (CLI)として全体的な生活習慣の評価を行った。以上の評価を基に、海外勤務男性およびその女性配偶者のメンタルヘルスの状況における性差を比較検討するとともに、それらに与える生活習慣の影響を性別毎に検討し、統計学的な解析を行った。

その結果、生活習慣に関しては、飲酒、喫煙、朝食摂取、間食の生活習慣指標が海外勤務男性において低値を示したにもかかわらず、メンタルヘルスの面では、むしろ女性配偶者において、抑うつ、情緒不安定、神経症の指標値が高かった。また、生活習慣とメンタルヘルスとの関連については、海外勤務男性群において、不規則または不節制な生活習慣とメンタルヘルス状況の不良との間に弱い相関を認めたのに対し、女性配偶者においては生活習慣とメンタルヘルスとの間にはほとんど相関性がみられなかった。

以上の結果より、海外在住の勤務男性と女性配偶者の間では、メンタルヘルスを維持する要因が異なっており、特に女性配偶者においては生活習慣の影響よりも、海外在住による言語、文化、環境の変化に影響を受けやすく、より対人的な孤立に見舞われやすい、などの他の要素により、メンタルヘルスの状況が左右されやすいことが想定された。海外勤務男性においては、生活習慣とメンタルヘルスとの間に弱い相関を認めたものの、本研究が横断的な研究方法をとっているという限界があり、生活習慣がメンタルヘルスへの影響因子となる可能性については結論付けられなかった。

3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究は、海外に在住する勤務者のみならず、その配偶者のメンタルヘルスにも焦点を当て、勤務者よりもむしろ配偶者の方がよりメンタルヘルス上の問題に親和性が高い点に着目すべきであることを提言しうる貴重なデータを提供している。生活習慣とメンタルヘルスの因果関係については、横断的な研究の結果である限界を十分理解しており、これらの相関については、今後、前方視的な研究により再検証されるべきであるという確かな展望も示されており、本研究がそのような将来的な研究を動機付ける基礎研究となった点については十分評価できる。よって、その学術的意義は高いと考えられる。

以上により、本論文は学位授与に十分値するものであると判断した。

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
2 要旨は800字~1200字以内にまとめること。
3 *印は記入しないこと。